「今後の県立高校に関する意見交換会（第１回）」記録要旨【盛岡ブロック】

平成 27 年 6 月 8 日（月）
盛岡商業高校　4 階大講義室

【盛岡市　参加者】

・意見交換会ということであれば、もう少し資料の要点をわかりやすく示したほうが、参加が意見を出しやすいのではないか。
・少子高齢化に対応していくために、県教育委員会ではどのようなビジョンを持っているのか説明してほしい。

【　県教委　】

・再編を進めていく前段として今後の高等学校教育の基本的方向の改訂を行ったところである。これから再編に向けて具体的なところを詰めていかなければならない。そのためにこのような意見交換会を開催していることを御理解いただきたい。平成 22 年度に実施した地域検討会議では、地域の中心校は一定の規模を維持する。小規模校についてはギリギリまで維持してほしい。専門学科については、産業方向を踏まえ適切に配置してほしい。様々な課題を抱えた生徒に適切に対応してほしいと様々な意見をいただいている。今回はこのような論点を押さえつつ、小規模校の在り方や教育の質をどのように確保していくか等について検討していく必要があると考えている。
・通学支援策についても、県教委としての検討と併せ地域の皆様から意見を伺いながら検討を進めていきたい。
・ご指摘いただいた、資料も含めわかりやすく説明してほしいという御要望については次回以降の課題とさせていただきたい。

【　県教委　】

・今回お示ししたものは、今後の県立高校の在り方についての大まかな方向性である。今後、再編を進めるにあたり、まず皆様から御意見を伺ったうえで計画を示したいという趣旨で開催しているものである。具体的には、小規模校のあり方、通学に対する支援、少子化に対応した１学級定員の在り方、望ましい学校規模、生徒にとって望ましい教育環境、今後の統合の在り方等についてである。

【盛岡市　参加者】

・高校の中途退学者や不登校の生徒の数を教えていただきたい。高校再編と併せ、こうした生徒達を減らしていく対策が必要ではないか。
・私立高校のない地域や公共交通機関等の通学手段のない地域では、教育の機会の均等の面からも慎重な検討が必要と考える。
・小規模校は人数が少ないことにより、手厚い指導が可能であり特色ある教育ができる。私立高校では生き残りをかけて様々な取り組みをしている。県立高校はそのような取り組みが少ないと感じている。
・入学者選抜にあたって、各高校の裁量を拡大するとあるがどのようなことを想定しているのか伺いたい。

【　県教委　】

・中途退学者の数であるが、全日制定時制併せて平成 19 年度は 503 人、1.46％。平成 25 年度は 263 人、

（次頁に続く）

1.22%となっている。不登校の生徒の数（年間30日以上欠席した生徒）であるが、平成19年度は472人、1.37%。平成25年度は377人、1.26%といずれも減少傾向である。

・通学支援については、統合に伴い通学が困難となる場合に、市町村や保護者が運行するバスの運行経費に対して支援している。こういった事例や他県の状況等も踏まえながら、今後の対応を検討して参りたい。統合を伴わない通学支援については、義務教育でないということ、また公平性の観点から県全体で実施することは難しいと考えている。

【　県教委　】

・中途退学者については、学校現場でも減らす努力をしている。現在は転校について柔軟に対応し、環境を変えることで高校生活を続けられるようなことも実施している。実際に不登校の生徒が全日制から定時制に転校し卒業していった生徒もいる。

・推薦入試における推薦枠の拡大については、平成28年度入試からスポーツ、文化活動に加えて将来の職業選択を見据えた本人の学ぶ意欲も考慮した推薦基準に改める予定である。具体的な各学校の実施要項についてはこれから示すことになる。

・学校の特色づくりについて、県立高校は私立高校と異なり公教育であるので何でもありという特色は出しづらいものがある。

【矢巾町　参加者】

・本日の日中に行われた地域検討会議に参加された方々からどのような意見が出されたか教えていただきたい。

・他県の再編の状況、特に被災県であった宮城県、福島県はどのようになっているかわかる範囲で教えていただきたい。

・具体的な再編計画はいつ頃示されるのか。

・今回の計画は何年先までのことを想定しているのか伺いたい。

【　県教委　】

・本日行われた盛岡ブロックの地域検討会議では学科の在り方、小規模校の地域との連携の在り方、1学級定員について、郷土愛を育む教育の在り方、小規模校の存続等の御意見があった。

・宮城県は震災前に再編計画ができていたので、それに基づいて再編が進んでいる状況である。福島県は、ふたば未来学園高校のように中高一貫教育校を新設したが、本格的な再編計画はこれからと聞いている。

・具体的な再編計画に向けた検討は今年度行うとしているが、公表の時期については今のところ未定である。

・再編計画では、前期５年間の具体的な計画を示すとともに、後期５年間の方向性を示すこととしている。後期の具体的な内容は、今後の状況を見極めながら改めて検討していくものである。

【　県教委　】

・平成27年度入試では志願倍率が１倍を切り、0.93倍と過去最低となった。これは、震災後、ブロック毎の学級数調整は行わず、欠員を生じた個別の高校の学級数調整としていることも一因であるが、再編にあたっては、全国に先駆け岩手型を発信する気概で取り組んでいく必要があると考えている。

【雫石町　参加者】

・雫石町に隣接している西和賀高校は盛岡ブロックではない。西和賀高校を統合する場合、北上方面の高校にするのか雫石高校にするのかお聞きしたい。

（次頁に続く）

・盛岡南高校の進路状況はホームページに公開されていない。高校によって詳しく公開しているところもあるので、統一していただければ中学生が高校を選択する際役立つと思う。教育委員会からも各高校にお伝え願いたい。

【　県教委　】

・西和賀高校の統合の件については、まだ、各高校の具体的な再編計画を示す段階ではないので、仮定の話についてはお答えできないことを御了承願いたい。

【　県教委　】

・各高校の進路情報については、ホームページ等を活用して積極的に情報発信するよう指導している。御指摘の点については学校に伝えたい。

【盛岡市　参加者】

・高校の魅力づくりが少ないのではないか。もっと各高校が特色を打ち出していけば、生徒が集まるのではないか。

【　県教委　】

・各高校では、中学校に出向いての学校説明会や学校通信等でそれぞれの高校の魅力や特色をアピールしている。ただ、入試倍率が 0.93 倍ということを見てもわかるとおり、中学生が少なく各校の努力にも限界があることも事実である。以前に勤めていた高校では、野球部の活躍や地域連携に力を入れ、地域から高い評価をいただいてはいたが、定員を満たすことができなかった。理由はそれだけ、地域に中学生がいないからである。このような現実を理解したうえで御意見をいただきたいと思っている。いずれ、各高校とも魅力づくりに努力していることは御理解願いたい。

【雫石町　参加者】

・具体的な再編計画を出さないと、話が進まないのではないか。具体的な話をすると、盛岡市にある高校を統合して周辺にある小規模校は残していくような工夫が必要である。現在、高校は義務教育となっているので、特に通学が不便な地域では地元の高校（小規模校）は必要になってくる。

【　県教委　】

・具体的な計画を早く出すべきではないかということについては、御意見として承りたい。

・岩手県の教育にかけている予算は島根県についで２番目となっており、教育に力をいれているところは御理解いただきたい。

【滝沢市　参加者】

・今後の高等学校教育の基本的方向では望ましい学校規模４～６学級としているが、このような表現をすることにより、それ以外の学校は望ましくない学校という烙印を押されているような気がする。

・小規模校をかかえる自治体では様々な施策を地元の高校に対して行っている。例えば葛巻町では１千万円以上の支援を葛巻高校にしているが、県でこれを超えるような施策を示さないと小規模校に配慮しますと言っても説得力がないと感じている。高校の存続を訴えている自治体の要望に県教委はどう対処していこうとしているのか伺いたい。

・募集学級数の推計を見ると 40 人定員で計算している。県教委はこの先も１学級定員は 40 人としていくものと読み取れる。１学級定員を少なくする要望が出ているときにこのような計算の仕方は考える必要があるのではないか。

（次頁に続く）

【　県教委　】

・改訂した基本的方向では望ましい学校規模を４～６学級としているが、これは３学級以下の小規模校を一律に統廃合するとしているものではない。３学級以下の高校が４割を超えている現状を踏まえ学校規模に幅を持たせる意味で原則を加えているものである。小規模校は生徒一人ひとりにきめ細やかな指導ができる一方で、進学から就職まで多様な進路希望に合わせた対応が難しいこと、部活動では主な団体競技において男女毎の設置が難しく、部の数が制限される等の課題があるところである。このような課題を少なくしていくために、どのようなことができるか各市町村と知恵を出し合いたいという趣旨で記載しているものであり、県として各市町村に強制的に支援を求めているものではない。次回の検討会議では他県の状況を示しながら具体的な話し合いを進めていきたいと考えている。

・募集学級数の推移は、各校の学級数を機械的に推計するために示したもので、この後の再編計画でも１学級定員を 40 人にするとしたものではないことを御理解いただきたい。１学級定員については別途検討が必要と考えている。１学級定員を減らした場合の財政負担については国へ要望しているところである。

【盛岡市　参加者】

・平成 17 年度に盛岡市内の学校を１学級減にしたことがあった。地域の学校を残すという観点で実施し大変良かったと思っていたが、１年で減らした学校の学級数を復活させている。地域の学校がなくなると地域に与える影響が大変大きいものがある。岩手県全体のことを考えれば、盛岡市内の学校の学級減を行うことは仕方のないことと考えているので、今後もそのような全県的なことを視野に再編計画を進めてほしい。

【　県教委　】

・御指摘のとおり、盛岡市内の高校の学級を減らし盛岡市周辺部の高校に生徒が志願するようにしたことがあったが、実際は盛岡市周辺部の高校の志願者は増えず、学級減を行った学校では多くの不合格者を出す結果となった。このようなことから、盛岡市内の高校の学級減を行ったからと行って必ずしも周辺部の高校に行くとは限らないと考えている。こういった中学生の志望動向も踏まえながら慎重に検討していきたいと考えている。